「授業改善のための学生アンケート」2026 年度前期 顕彰授業について

2026 年 9 月 17 日
白百合女子大学 FD･SD 推進委員会

「授業改善のための学生アンケート」は 2010 年度より実施し、2017 年度には集計結果を活用した顕彰制度を導入しました。アンケート結果は個々の授業やカリキュラム改善に役立てられているほか、高評価を得た授業を公表し、その授業の優れた点を大学全体で共有しています。

2026 年度前期の結果は以下のとおりです。顕彰された授業の工夫や取り組みについては順次公開いたします。授業のあり方は授業の数だけありますが、顕彰授業の工夫を知ることで、よりよい学びに向けた気づきを得る一助となることを願っています。

2026 年度前期

部門Ａ（履修者 6～14 名）

国語国文学科専門科目　水曜 2 限　前期
「国語国文学特講（表現学）Ⅰ」三浦　則子先生（文学部国語国文学科非常勤講師）

部門Ｂ（履修者 15～29 名）

初等教育学科専門科目　月曜４限　前期
「領域言葉」土橋　久美子先生（人間総合学部初等教育学科准教授）

部門Ｃ（履修者 30 名以上）

児童文化学科専門科目　火曜３限　前期
「児童文化入門Ｂ」森下　みさ子先生（人間総合学部児童文化学科教授）

白百合女子大学「授業改善のための学生アンケート」の目的（実施要領より抜粋）

① さまざまな角度から学生の反応・実態を知ることで、個々の授業の授業内容・教授方法等を、教員自身が見直し改善するための材料を提供する。
② 設備や機材、資料など、学習に適した環境を大学がどの程度提供できているかを測定し、これを改善していくための材料を得る。
③ 学生が学びたい内容を適切なレヴェルできちんと教授できているかを知り、大学全体、あるいは学科や学年ごとのカリキュラム内容を、必要に応じて改善していくための材料を得る。
④ 科目に対する学生の意欲や、授業時間外での学習の実態を把握することで、カリキュラムが想定している努力を学生が傾けているかを測定し、必要に応じて改善の方法を探るための材料を得る。
⑤ 学生に対して、自らの学習のあり方を見直し、大学での学習をより実りあるものとするための材料を提供する。

白百合女子大学「授業改善のための学生アンケート」の集計結果を活用した顕彰制度

[実施方法]
① 実施時期は各学期末とし、前期末は前期科目、学年末は後期科目と通年科目を対象とする。
② 集計の単位は授業毎とする。学部科目と大学院科目を区別しない。
③ 集計する設問は、以下の 6 項目（項目毎の平均点の合計／30 点満点）とする。
　Q3　教材や配布資料の内容や分量は適切だった。
　Q5　教員の説明はわかりやすかった。
　Q6　教員は学生からの質問、相談、提出物に対して適切に対応していた。
　Q7　この授業の内容に興味を持つことができた。
　Q8　この授業を履修したことに満足している。
　Q9　この授業を他の人に勧めたい。
④ 顕彰候補は当該年度のアンケート実施対象授業のうち、6 名以上の回答が得られたものとする。
⑤ 顕彰部門は、「A」（履修者数 6～14 名）「B」（履修者数 15～29 名）「C」（履修者数 30 名以上）の 3 部門とする。
⑥ FD･SD 推進委員会は、選考資料をもとに各部門第 1 位を確認、顕彰対象授業を決定し、顕彰対象授業の担当教員へ表彰を行う。なお、選考時にアンケート回答率および Q11 の回答内容によって、順位を調整する場合がある。
⑦ 表彰授業・担当教員名は、大学 Web サイトにて公表する。

[実施主体]
白百合女子大学 FD･SD 推進委員会